



北海道の日本海に浮かぶ焼尻(やぎしり)島。人口わずか三百人の、この小さな島の診療所に、二〇〇六年五月から〇七年三月末までの十一カ月間、たった一人の医師として勤務しました。それまで私はへき地派遣で、人口六千人余りの利尻島の病院や診療所で勤務していました。しかし、くしくも医者になって十年目の節目に、この島に赴任したことは、自分の医者人生の中で本当に貴重な経験となりました。

行事はみんな

焼尻は子供が少ないため、小中学校の運動会や学芸会は島民みんなで盛り上げます。役場支所、漁業協同組合、郵便局の人

じんぼ しずお
神保 静夫 20期生、1997年卒



沖から望む焼尻島

北海道立焼尻診療所

【私の勤務地】焼尻島は北海道の北西部にある周囲約12kmの島で、天然記念物のオンコ(イチイ)の原生林で知られる。対岸の羽幌(はぼろ)町までは、フェリーで1時間を要する。島で唯一の医療機関が北海道立焼尻診療所で、医師、看護師、事務員各1人の計3人が勤務している。

いずれは良き指導医に

たちや、駐在さんに交ぎって、診療所医師である私も来賓として、は隠し芸の出演者として、参加

島の行事に自然な形で加わることでできました。人口が少なく診療所

空室に電話してヘリコプター出動を要請しました。幸い天候が良く、スムーズにヘリコプター搬送ができました。到着後、直ちに心臓カテーテル治療が行われたおかげで、その人は何の後遺症もなく治り、程なく元気に島に帰って来しました。

貴重な経験得る

人口が少ないながらも、一人で診療するわけですから、すべての診療科で一次診療をする必要があります。私の専門は整形外科ですが、自治医大の卒業生として各科の研修を積んだ経験や、それまでのへき地勤務で得た臨床経験を基に、何とか離島診療所の医師としての責務を果たすことができたと思自しています。

私は自治医大の卒業生で本当に良かったと思います。自治医大を卒業したからこそ、義務年限の間、思う存分、地域医療に携わることができました。この経験は普通に大病院や市中病院で研修を積んだものでは得られなかったと思います。

ある土曜日の朝七時に診療所公宅の電話が鳴りました。急に胸が苦しくなったので診てほしいと言ったので。早速、診療所で診察したところ、心電図検査・簡易迅速血液検査で、心筋梗塞(こうそく)が強く疑われました。緊急搬送が必要でした。

現在、私は整形外科の勉強をもう一度やり直しているところですが、まず自分もっと力をつけなければいけません。そしていずれは先輩たちの良き指導医となり、ライフワークとして地域医療のバックアップに従事することを夢見ています。

私は札幌医大救急診療部に電話して心筋梗塞患者の受け入れを依頼し、さらに北海道防災航

※神保医師は異動となり、現在遠軽厚生病院に勤務しています。(次回予定は高知県)